

第5回福大生による東アジア映画字幕制作・成果発表会 について

間 熊 木 勉
ふ さ 子 勉

1. はじめに

第5回福大生による東アジア映画字幕制作・成果発表会は2013年9月21日（土）に行われた。前年からの中国・韓国と日本の外交上の軋轢が尾を引き、嫌中・嫌韓ムードを煽る声が高まっている時期ではあったが、私たちは過去4回と同様、多くの市民に支えられ無事成果発表会を行うことができた。中国・韓国と日本の間で相互理解を深めるためには当然ながら政治や行政の次元での活発な意見のやり取りや交流による環境の整備が望ましく、またそうした高度なレベルでの交流の積み重ねに大きな効果があるのは言うまでもない。しかし、それがなされえないとき、やはり民間交流、あるいは私たちの行なうような中国・韓国を第一次的な資料（映画という形ではあれ）を通じて正確に知ろうとする努力も、いささか行き過ぎた自賛ではあろうが、東アジアの未来に向けてのごく小さな作業でありつつも貴重な蓄積の一つとなりうるものと信じてやまない。映像は当時の社会や人々の感情を反映し、その映像や台詞に込められた言葉の中に現代に生きる私たちが読み取るべきものは多い。台詞の翻訳にとどまらない理解が、私たちの作業を行った学生たち、関係してきた学生たちの中に芽生えることを願うばかりである。

以下、その成果発表会について簡単ではあるが概要をまとめておきたい。

(間・熊木)

2. 実施報告

2-1. 事業名

第5回福大生による東アジア映画字幕制作成果発表会

2-2. 概要

このプログラムは、人文学部東アジア地域言語学科の有志学生と教員が協力して、1950、60年代の作品等、普段あまり見ることのできない韓国・中国映画に日本語字幕を付け、その成果を市民に公開しようと2009年から始めたものである。5回目に当たる本年は、諸般の事情により、1960年代の中国映画にのみ日本語字幕を付け、それに加え1941年に制作された朝鮮映画を本学科教員の解説付きで上映した。この事業はアジアフォーカス・福岡国際映画祭2013協賛企画である。

2-3. 内容

- (1) 日時：2013年9月21日（土）
- (2) 会場：福岡天神エルガーラ7階多目的ホールI
- (3) 主催：福岡大学人文学部東アジア地域言語学科
- (4) 後援：福岡市、福岡市教育委員会、駐福岡中国総領事館
- (5) プログラム：13:00 開場
13:30 「我們村裡的年輕人・続集（続村の若者たち）」上映
15:15 「半島の春」上映、解説（熊木勉）
17:15 終了
- (6) 入場料：無料
- (7) 上映：プロジェクタ投影
- (8) その他：韓国映画は韓国映像資料院のものを使用。

2-4. 上映作品

- (1) 中国映画「我們村裡的年輕人・続集（続村の若者たち）」1963年、監督：蘇里・伊一青、脚本：馬烽、出演：梁音、金迪、李亜林ほか
- (2) 朝鮮映画「半島の春」1941年、監督：李炳逸（イ・ビョンイル）、出演：金一海（キム・イルヘ）、金素英

(キム・ソヨン)

2-5. 参加者数
のべ116名。

2-6. 配布物

- (1) チラシ (大学公式ホームページにも掲載。)
- (2) リーフレット (当日会場にて配布。後掲。)

2-7. 情宣・報道など

- (1) アジアフォーカス・福岡国際映画祭 2012 公式リーフレット (後掲)
- (2) アジアフォーカス・福岡国際映画祭公式 HP
- (3) 福岡大学公式 HP
- (4) 福岡大学人文学部東アジア地域言語学科 HP

2-8. 観客の感想 (全 44 通、のべ 53 通)

- (1) 中国映画「我們村裡的年輕人・続集 (続村の若者たち)」に関するもの: 32 通
- (2) 朝鮮映画「半島の春」に関するもの: 21 通
詳細は後掲。

2-9. 字幕制作参加者

教員: 2 名。

学生: 人文学部東アジア地域言語学科中国コース 計 19 名。

内訳は以下の通り。

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	OB	計
0	6	5	6	2	19

※準備期間が 2012 年度後期から 2013 年度前期に亘ったため、学生の学年は 2013 年度現在のものを示し、2012 年度の最高学年在籍者は OB として表示した。

(間)

3. 字幕制作について

第 1 回から第 4 回までは中国映画と韓国映画の双方に日本語字幕を付けてきたが、前述のように、本年は諸般の事情により中国映画のみの字幕制作となった。

中国映画は、過去四回とほぼ同じ工程で作業を進めた。すなわち以下のような流れである。

- (1) 第 4 回発表会 (9 月) を終えた翌 10 月から、今年度の作品のセリフの読み合わせを週 1 回 (金曜 3 限) の勉強会として行い、中国語のセリフの直訳を作る。2012 年後期は最高学年 (四年) が

2009 年度入学の学生、以下 2010 年度入学の三年生、2011 年度入学の二年生がこの勉強会に参加した。2013 年前期は三年、二年の学年が一年ずつ繰り上がり、新たに 2012 年度入学二年生 6 名がメンバーに加わった。このセリフの読み合わせは 2013 年 7 月まで行われた。やり方は中国語字幕つきの映像と中国語のセリフを投影するパワーポイントを組み合わせ、一つ一つのセリフを読み、意味を確認していくというものである。読み合わせ後は各シーンを一人が担当して日本語訳を作る。

- (2) 7 月の試験期間中、試験の少ない四年生がスポッティングを行い、そのファイルを使って分担して字幕の初稿を作成した。
- (3) 初稿完成後、一人が一つの役柄のセリフを通して推敲する「役柄別推敲」を行い、推敲後のファイルを集団推敲に於いて用いるファイルとした。
- (4) 8 月下旬に本学の研修施設やまなみ荘にて 2 泊 3 日の集団推敲合宿を行い、そこでゼロ号を完成させた。
- (5) 合宿後最後の推敲を行い定稿とした。
- (6) 9 月の作業は主としてリーフレット制作であった。
- (7) 発表会当日は、受付や司会、案内などを学生が担当した。

第 4 回の報告書で、「字幕制作の面にばかり気がいって、映画の背景にある中国の社会、歴史などについてあまり深く学べていない点、大学院生のいない本学科においては、このプログラムがどうしても教員主導にならざるを得ず、学生が大いに自主性を発揮するまでに至っていない点」が課題だと述べた¹。今回の字幕制作では、これらの課題はなお存在するものの、少なからぬ進歩がみられたと筆者は感じている。これはひとえに 5 回という回数の積み重ねのなせる業であろう。第一回に参加した学生と今回参加した二年生の間には直接の経験の継承はないものの、確かに受け継がれ、発展しつつあると感じられる何かがあった。

また、これは余談だが、昨今の就職試験に於いては企業側が学生に大学時代に何を熱心にやったかを問う場合が多い。その際、字幕チームに参加した学生は例外なくこの活動について述べるのだそうだ。そうするとほとんどの企業の担当者がこの活動に興味を示し、いろいろと質問して話が盛り上がるのだという。このエピソードは、この活動が本学科、ひいては本学の特色ある活動の一つに育ちつつあることを示すと共に、社会にアピールする魅力を持ちうることの表れではないかと考える。

(間)

¹ 間ふさ子、熊木勉「第 4 回福大生による東アジア映画字幕制作・成果発表会について」『福岡大学研究部論集 A: 人文科学編』13 巻 2 号、2014 年 1 月、77 頁。

4. 朝鮮映画上映について

これまで第1回から第4回までは韓国映画に日本語字幕を付ける作業を中国映画にあわせて行ってきたが、今年度は残念ながら担当する東アジア地域言語学科韓国コースの教員がさまざまな仕事に追われる中で、地道に字幕作業を行う時間的な都合をつけることができなかった。さらに言えば、これまで概ね50年代を中心に古い映画を念頭において作品を選定して来たのであったが、著作権の問題があり、すべて韓国映像資料院から出ているDVDに字幕を入れさせていただく形での作業が土台となっていたのが実際のところである。逆に言えば、それ以外の商業映画を利用する場合、著作権の許可を得る手続きに一定の労力が発生し、また著作権の存在をどこに確認すべきかもはっきりとしない場合もないわけではなかった。韓国映像資料院の資料を原則としてきたのは、こうした問題を原則的にクリアできると考えたからであった。しかし、韓国映像資料院から出されたコレクションは、近年は日本語字幕がすでに韓国文学翻訳院の手によって挿入されている状態で出荷されている。とすれば、私たちができる作業はこのコレクションにはない、ということになってしまう。もちろん、あらたに字幕を付け直すということも可能であろう。しかし、一度ついている字幕をあらたに付け直すことは、教員としては字幕作業という側面から言えば一旦学生たちに手品の種明かしをするようなものでもあり、モチベーションという意味からもこの形で字幕作業に時間を割くことに二の足を踏んだというのが現状であった。

実は、韓国映像資料院の古典コレクションのうち、私たちが字幕をつけていないもので日本語字幕が入っていないDVDも複数存在する。これらについては、第1回から第3回までを担当した熊木は一応すべて映画を見たつもりである。しかし、はたして作品としての完成度はどうなのか、字幕を入れるという作業そのものは学生たちの勉強にはなるにしても、映画の作品性の高さや、映画の背景から得られる何らかの学びが作業を行う時間に見合った形で期待できるのかどうかと考えた場合、あえて字幕作業を行うべきかどうかの判断の岐路に立たざるをえなかった。また、すぐれた作品であっても、今度は学生の側でそれを十分に消化できるかどうかの問題も存在した。2時間程度の長編になると、そういう問題がとくに顕著に意識されることとなる。

第5回成果発表会ではこうした諸事情に鑑み、韓国コースでの映画の字幕作業をいったんは中断することとした。その代り、私たちは教育ではなく地域貢献という側

面を意識することとした。

植民地時代の朝鮮映画を上映することにより、観客の方々に当時の映画をそのままに見ていただくという試みである。さらに、作品の理解を深めていただくべく、熊木が映画の解説を行った。

今回、上映したのは、「半島の春」（1941年）であった。監督は李炳逸、出演に当時人気を博した金一海、金素英の姿が見える。極めて大衆的な映画であり、当時、新聞でも扱いは小さいものであったが、逆に言えば、新聞にもさほど扱われないほどに「時局との関係の薄い作品」であったということも言える。原作は金聖珉「半島の芸術家たち」（『サンデー毎日』1936年）である。

映画では、日本語と朝鮮語が入り混じっている。字幕は当時の日本語字幕そのままである。私たちはこの映画を観ていただくことで、当時の朝鮮映画の姿を観客の皆さんにそのままに提示したいと考えた。当時の日本語字幕そのままであるので、観客の方々にとってみると、まさにタイムスリップしたかのように、加工のない、当時のままの映画鑑賞となった側面もあることであろう。

こうした試みには是非もあろうが、手軽に韓国映像資料院の資料を手にとることができない市民の方々には大いに参考となりえたのではないかと。当日の解説で行った熊木のパワーポイント資料を後ろに参考として付しておく。

（熊木）

5. 成果発表会当日について

過去四回の発表会において、当日お客様から出た注文は、前の人の頭が邪魔になって字幕が見えにくい、ということと、ホールの冷房が効きすぎているというものであった。

今回は毎年お借りしているエルガーラホールでリニューアルが行われ、これまでの中ホールIから多目的ホールへと会場が変更になった。中ホールIはほぼ四角形の部屋だったが、多目的ホールは長方形の部屋で、スクリーンは長辺の壁に設置される。面積はほぼ同じであるため、並べられる椅子の数は同じだが、一列に並べる椅子の数が減り、列の数が減った。その結果、これまでのように前の人の頭が邪魔になって字幕が見にくいという現象は減るのではないかと思われたが、残念ながら今年も同様の意見を若干頂戴した。この問題は当面座席の並べ方を工夫することで折り合いをつけるほかなさそうである。

字幕は今年も向かって右上に縦書きで表示した²。朝鮮映画も古い映画であるため、最初から向かって右上に

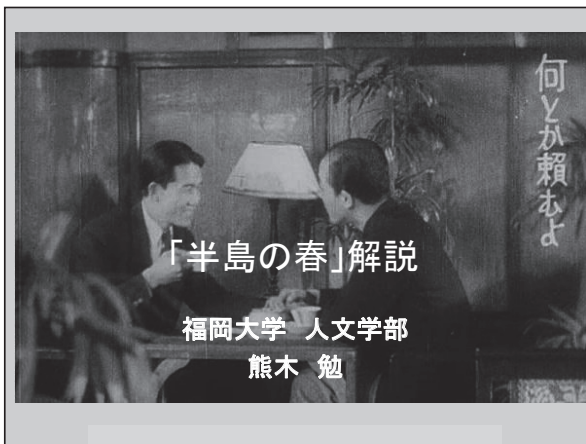
²「我們村裡的年輕人続集（続村の若者たち）」のオリジナル映像には最初から英語字幕が付いていたため、日本語字幕は向かって右上に表示せざるを得なかったこともある。

表示されていたので、この点では問題はなかった。


冷房に関しては、昨年同様、会場内に学生を配置し体感温度をこまめに確認して調整したが、やはり寒いという意見が一部あった。これらの問題については今後も状況に応じた対応を心掛けたい。

なお、上にも記したように、当日の受付や司会などは、中国映画チームの学生が行った。

(問)



李炳逸(イ・ビョンイル)(1910-1978)



1932年 日本に渡る。翌年、コリアレコード社を設立。(三崎英語専門学校で修学か)


1938年 日活東京撮影所、監督部に入社。阿部豊(ハリウッドの影響を受け、sophisticated comedyを導入)の教えを受ける。

1940年 朝鮮に戻り、明宝映画社を設立。

1954年 40年代後半に米国で映画を学び、日本滞在を経て帰国。東亜映画社を設立。

1956年 代表作「시집가는 날(嫁入りの日)」を監督。(韓国映画初の海外映画受賞作:第4回アジア映画祭最優秀喜劇賞)

金素英(キムソヨン)(1913-?)




清純かつ恥ずかしがりの印象で当時、高い人気を誇った。

当時における朝鮮三大女優の一人。
・文芸峰
・金信哉
・金素英


1948年の映画以降、行方が分からない。結婚に伴い、アメリカに渡ったと伝えられる。

李炳逸「情熱の描写」(朝光:1941年5月号)より抜粋

「半島の春」このテーマは朝鮮の映画人らの独特な環境と彼らの持っている良心的芸術家としての情熱を描写しようとする一つの生活記録である。私が『このシナリオ』を選んだ意図は、この作品が持っている特異な内容と芸術家として生きようとする一つのグループの生活『ニュアンス』を克明に描写したかったからである。もう一つ言っておきたいのはこの作品で演出家としての野心を成功させることよりも、作品に対する真摯な意図を最後まで貫徹すると同時に朝鮮の映画人としての新出発を約束したかった。...(原文朝鮮語)



ト恵淑(ボッケスク)(1904-1982)



「籠の中の鳥(鸟籠子:1926)」で朝鮮の大スター羅雲奎と共演するなど、芸歴が長く、とりわけ1940年「授業料」で老け役を演じて好評を博し、以後、老け役で出ることが多かった。

本学科の字幕制作発表会での作品「青春双曲線」「三等課長」をはじめとして、数多くの作品で演技を見せている。

韓国映画俳優協会初代会長でもあった。

金一海(キムイルヘ)(1906-2004)



演劇を経ずに映画の世界に入ること
トニー映画に合った大げさでない
写実的な演技で評価を受ける。

1930年代後半から40年代前半期において
当時の朝鮮映画のスターであった。

なお、圧倒的な存在感を見せる許監督役は、徐月影(서월영:1904-1973)。
演劇出身で演技力に優れるが、解放後は活動を縮小する。

日本語と朝鮮語

- 1941年の時点で、朝鮮の人口は2400万人(内地人70万人除く)。うち、日本語を「精解シ得ル者」1,884,733人(7.88%)。「普通会話ニ差支ナキ者」2,087,361人(8.73%)。合計で16.61%。『朝鮮総督府施政年報:昭和16年度』
- 誰を対象に製作された映画であるかの問題→明治座は日本映画を多く上映したが、1938年を基準として、日本人5割、朝鮮人5割の観客(『三千里』1938年5月号)。1500席。

金聖珉「半島の芸術家たち」



金聖珉「半島の芸術家たち」
1936年に『サンデー毎日』で
千葉竜雄賞を受賞。

1年ほど朝鮮で映画製作に
携わった経験がある。

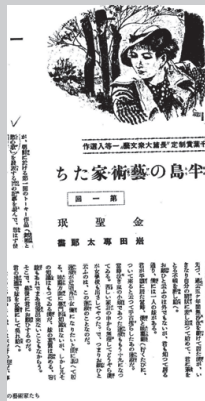
純粋小説としての張赫宙を意識
して、金は大衆小説を意識。

小説には実際にあったことが
二三含まれているとの弁。

受賞にあたっては菊池寛がその
大衆性を高く評価した。

『半島の春』の意味

- 当時の朝鮮人芸術家たちの生き方→不遇な状況からの脱出と日本への協力
- 現代からの視線→内鮮一体の過渡期的要素、京城の日常の断面



・小説とは細部でさまざまな違いを見せる。

・登場人物の名前も変わっている。

・映画のアンナ像は、小説ではさらに「悪女」のように描かれている。

・同じく大衆性が強いが、映画のほうがメロドラマ的な要素が強く見える。

・小説では作中映画は「舞姫の愁心歌」。映画では「春香伝」。

・小説では最後に満州へと向かう形(内→外)、映画では東京へと向かう形(帰属)。

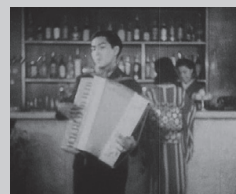
生活相



1941年の朝鮮、そして朝鮮映画

- 朝鮮映画令(1940年8月施行)映画法(1939年10月施行)を基本的に踏襲(主務大臣を朝鮮総督に変えるなどの変化)→製作は朝鮮映画製作株式会社へ一元化(1942年9月)
- 朝映では「国家目的に即応し、朝鮮統治の根本方針に従ひ、皇国臣民化鍊成に資すべき優秀な」劇映画・文化映画・時事映画を独占的に製作。自由製作は認められなかった。
- 一方、資金と機材の問題→企業化、安定的な資金の必要性→日本への協力という一面も。
- 朝鮮では映画が大きな娯楽。1942年(1941年人口基準)で2400万人程度の人口に対し1年の観客動員数は3000万人。単純に計算しても1人で年1.2回ほどは観ている。京城では1人あたり7回。→映画の宣伝・影響力

李在鎬(イジェホ)(1914-1960)



解放前の代表曲

「불효자는 옵니다」
「번지없는 주막」
「대지의 향구」

解放後の代表曲

「홍콩 아가씨」
「물레방아 도는 내력」
「경상도 아가씨」

映画で演奏された「木浦の涙(목포의 눈물:1935)」(曲:孫牧人、歌:李蘭影)

代表的な曲「慶尚道娘(경상도 아가씨:1952)」(曲:李在鎬、歌:朴載弘)

望郷草の愛(망향초 사랑)



↑ 映画のシーン

望郷草の愛



白蘭児(ベク・ランア)



当時をうかがわせる1シーン



「芸道一代男」「ロビンソン漂流記」

また、李香蘭(美しき犠牲)の垂れ幕が見える。

明治座



↑ 映画のシーン

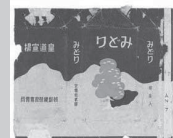


当時の写真

当時をうかがわせる1シーン



タバコ「みどり」。こうした映像は広告としての効果も考えうる。



現在の明治座(明洞芸術劇場)



<http://blog.daum.net/baweesol44/8871827> より

当時をうかがわせる1シーン



ビールはキリンビール。



明治座での撮影



1941年3月2日に明治座で実際に撮影。

李香蘭「美しき犠牲」の封切り舞台挨拶を見に来た人たち。



ありがとうございました。

6. 当日配布したリーフレット

第5回福大生による東アジア映画字幕制作成果発表会

第5回を迎える今年は、福岡大学人文学部東アジア地域言語学科の学生が日本語字幕を制作した1960年代の中国映画1本と、非常に貴重な1940年代の朝鮮の劇映画（解説つき）を上映します。ぜひご来場ください。（上映はプロジェクター投影にて行います。）

入場無料・事前申し込み不要

2013年9月21日（土）

福岡天神エルガーラ7階・多目的ホール I

〒810-0001 福岡市中央区天神1-4-2 Tel.092-711-5017

13:00 開場

13:30～15:00

■中国映画
我們村裡的年輕人・続集
(続村の若者たち)



15:15～17:15

■1941年制作の朝鮮映画
半島の春

解説 ●熊木勉(福岡大学人文学部教授)



本作は韓国映像資料院の映像を使わせていただいています

主催:福岡大学人文学部東アジア地域言語学科

問合せ●092-871-6631(内線4372) <http://www.hukuoka.ac.jp/east/>

後援:福岡市・福岡市教育委員会・駐福岡中国総領事館

アジアフォーカス・福岡国際映画祭2013協賛企画

中国語映画字幕制作と語学の学習について

甲斐 勝二

この字幕発表会もおかげさまで 5 回目を迎えました。当初は東アジア地域言語学科学生の課外授業として始めた字幕付けの勉強会でしたが、今年は、卒業生が映画祭のためにもう一本別の映画に字幕を付け映画祭に協力できるようになりました（『目撃者』9月19日キャナルシティ）。学生の中国語力の向上に、少しは役立っているのではないかとと思っています。

映画やアニメーションへの字幕付けが語学の学習に役立つ事については、これまで別の場所で何度か報告していますので、ここでは実際の学習に役立つ個別の例を一つ挙げておきます。それは、「格言」の使い方です。映画を使うと、これがとてもよくわかります。

ご存じのように言葉は、我々の生活を支えるものです。その場限りの会話でも、そこで使われる言葉には長い経験の蓄積があります。それを端的に表すもの、その一つがこの格言です。それぞれの文化地域では、それぞれの生活からこのような格言が生まれ出て、その知恵を伝えています。中国でもその通りです。今回の映画では、この格言がよく出てきました。以下に実際に使われた例をいくつか挙げてみましょう。

まず、最初に水力発電を巡って孔陰陽（彩りのある帽子をかぶった愛嬌のあるおじさん）が、「成せばなる（『有志者事竟成』：志があればその事業は完成する）」と述べる所、周囲の皆もその通りと思うわけです。

次に、主人公の高占武が、水力発電の勉強に耐えかねた若者に「志があればどんな事も難しくない、と言うじゃないか（『天下无难事只怕有心人』天下には難しいことはない、問題はやる気だ）」と説得する所、これで皆はまたがんばるわけです。

また、水力発電機の自主開発に失敗した高占武に対して村長が、「その力がなければするものではない（『没有这金刚钻就别揽这瓷器活儿』金剛鑽がなければ、陶器の修理は引き受けるな→その力がなければ引き受けるな。「金剛鑽」は割れた陶器をつなぐときに使う道具）」と強く出るところ。こう言ってあきらめさせようとした村長ですが、これは高占武に反論されてしまいます。

最後に、恋人の淑貞に振られたと誤解した高占武の祖父が、「律儀者にはよい嫁と言う（『家里有梧桐树，不愁招不来凤凰』家に梧桐の木があれば、その木を好む鳳凰は必ずやってくる）」と言って高占武を慰めるところ。まじめにやっている人間にはなんとなく希望がもてるような気がします。



こういった格言は、それだけで「なるほどそうだなあ」と思わせるところがあり、様々な事をいちいち説明しなくてもよいので、うまく使うととても便利な言葉です。出てくる場所も、議論を締めくくるとなるような場面になります。しかしながら、その分危険も伴います。その例が映画の後半部分に出てきます。村の会議の



場面です。そこでは、技術者（淑貞）を派遣している周村にさらに技術者（克明）を派遣する事が決められるのですが、村長は「徹底的に助けるぞ（『救人救个活儿，帮人家帮到底』人を救うときは生き返るまで、人を助けるときは最後まで）」と格言を述べて、さらりと技術者の克明の追加派遣の同意をとってしまいますが、その背景にはいささか複雑な事情がありました。周村にすでに派遣されている淑貞が足を骨折したために技術者の追加派遣が必要になったのですが、その話をする所淑貞の恋人の高占武や他の若者が余計な心配をする所とみて、村長は誰もが納得する決まり文句を使って村の幹部たちに同意を求めたわけです。この配慮が、他の若者に誤解、つまり克明が占部の恋人淑貞を奪ってしまったとの誤解を呼ぶ切っ掛けになって、最後の一波乱を導く事になるのは見ての通りです（この映画の正編『村の若者たち』では、克明は淑貞を恋人にしようとしていたので、他の若者の誤解も無理なものではありません）。

格言は会話文に限らず議論文でも中国語では昔からよく使われてきました。いろいろと議論をしてきて、最後に締めくくるこの一句を置き総括するのです。したがって、中国語の学習が進むと、このような言葉も学ばねばなりません。『成語辞典』『俗語辞典』等が必要になるのはそのためです。

（福岡大学人文学部東アジア地域言語学科）

「我們村裡的年輕人・続集」 を見る

間 ふさ子

「我們村裡的年輕人・続集（続村の若者たち）」は読んで字のごとく、「我們村裡的年輕人（村の若者たち）」の続編である。「我們村裡的年輕人」は1959年の作品で、続編はその4年後の1963年に作られた。いまでこそヒットした暁にはパート2、パート3と続けるのは映画界の常識のようだが、当時の中国映画では、上・下に分けて作るということはあるが、この作品のように、ヒットしたから続編が作られたという例はあまりないように思う。

中華人民共和国建国10周年に作られた「我們村裡的年輕人」は、大型慶祝映画「林則徐（アヘン戦争）」、「青春の歌」、「聶耳（ニエアル）」などの陰にかくれた注目度の低い映画だった。だから作る方もあまりプレッシャーを感じず自由に作ったのではないだろうか。そうでなければ、一人の女性をめぐる三人の男などという、当時の中国映画では「ありえない」設定が生まれるはずがない。

そもそも当時「恋愛もの」の映画はほとんど作られておらず、若い人の支持を得て映画は非常にヒットした。無名だった主役三人は一躍全国に名の知られた若手スターになった。しかもストーリーの中心は、村の若者たちが困難にもめげず水路建設を推し進めついに成功するという、いたって「新中国」的な真面目な内容だったから、あちこちで主人公たちの名前を戴いた農村建設支援グループが生まれたという。言ってみれば無欲の勝利である。

だが、続編ともなるとそんな気楽さは失われ、正編が世間に与えたインパクトに束縛されつつ、その継承・発展に腐心することになる。これは本作に限らず、すべての続編の宿命だろう。

「我們村裡的年輕人・続集」では、ストーリーを継承・発展させるためにいくつかの対策を講じている。一つ目は、ヒロイン孔淑貞と主人公高占武の恋が実り、曹茂林と小翠がカップルになったため、新たに二人の女性を登場させたこと。そうでないと新しい恋が生まれぬ。二つ目は、若者たちのために水路建設の次に来る新たな目標を設定したこと。それが小水力発電である。

だが、正編の「女一人に男三人」という大胆な設定は続編にはすでになく、あるのは一対一の至ってまじめな恋ばかりだ。それは、正編が「女一人に男三人」という設定を自ら否定して終わったからで、そのことが続編を制約している。

彼らが取り組む「小水力発電」も、水路建設とは違い、「やる気と根性」だけではどうにもならない。映画の中で登場人物たち自身がいみじくも言っているが、発電には専門の知識と技術と設備が必要だ。これもまた一種の制約と言える。

その結果、すでに恋人のいる孔淑貞や電気の知識がない高占武は第二線に後退せざるを得ず、代わって登場したのが、恋人のいない、電気の専門知識を持つ李克明だった。

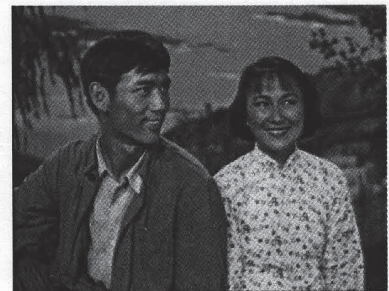
ただ逆に言えば、専門知識と技術と設備が整えば、小水力発電はべつに困難ではない。よってドラマの葛藤を生み出すため、優秀な技術者である孔淑貞の不在や、自家製水力タービン実験の失敗などの「試練」が用意された。また

続編で新たに登場した若い娘・馮巧英も、登場早々「恋人がいる」と自ら宣言する。これらの試練を乗り越えていくのが李克明で、その意味で言えば続編はまさしく李克明の成長ストーリーなのだ。

中国のこの時代の文学・芸術は、人々に対して社会の明るい将来図を描いてみせることが役割の一つであった。映画の冒頭で孔淑貞と李克明が並木道を自転車で走ってくるシーンや最後の農作業のシーンなどは、まさしく「この道を進めばこうなるはず」という理想図にほかならない。映画の中で李克明が描いた水力発電所の完成予想図も、馮巧英からはこっぴどく批判されるが、高占武は決して否定しない。映画の作り手が観客に見せた二つのシーンは、言わば李克明の「完成予想図」なのだ。2013年の私たちは、結果を知ってその「予想」を見ているということになる。そこから何をどう考えるのか、おそらくそれが大事なのであろう。

続編が正編を凌駕することは難しい。残念ながら本作もその例に漏れないようである。それでも1963年という年に恋愛映画の続編が作られたことはやはり何らかの意味を持つのではないかと私はひそかに思っている。

（福岡大学人文学部東アジア地域言語学科）



現代中国の水力発電事情

～中国は水力発電設備で世界一位～

映画「我们村里的年轻人・续集」では、若者たちの苦勞の末に、やっと水力発電ができた。農村に電気が送られたことで、彼らの生活が潤った。当時はそのように、中国は発電において、まだ発展していない時代であった。しかし、現在では見違えるほどに技術が進んでいる。

2011年の世界の水力発電設備容量は970GWで、この内中国は212GWと22%を占め、世界第一位の水力発電設備を有している。更に、2011年の新規設置容量(25GW)の50%である12.3GWを中国は新設し、世界一位であった。

中国政府は、第12期5ヵ年計画において、2015年までに水力発電として300GW設置することを目標としている。また、2012年7月には、三峡発電所における大型発電ユニット32基の、最後の1基(0.7GW)が稼動を開始し、総発電量22.5GWの世界最大の水力発電所が完成した。完成に約10年を要した大プロジェクトであった。

一方、中国では僻地に住む約500万人が、まだ電力系統にアクセスできていない。これには、他の発電方式や送電線を新たに敷設するよりも、地域の河川を利用した経済的なピコ水力(5kW未満)とミニ水力(4MW以下)の導入が検討されている。特にピコ水力は、中国での従来の火力発電(石炭が主流)よりも発電コストが小さく、かつ風力、太陽光、ディーゼルによる発電コストよりも安い。

しかし、三峡プロジェクトのような巨大ダムを建造して世界最大規模の水力発電を進めている一方で、問題も生じている。中国はアメリカに次いで温室効果ガス(二酸化炭素)排出のワースト第二位であり、石炭火力が全電力の八割以上を占めている。小水力発電の建設を促すために、二酸化炭素排出の甚だしい五万キロワット以下の火力発電の新設を一九九八年に禁止し、近く規制上限を一〇万キロワットにまで引き上げるといわれている。今後、中国の電力需要が飛躍的に伸びても、それらのほとんどを水力発電で賄うことが可能であり、二酸化炭素の排出総量は増えず、さらに既設石炭火力を水力発電に置き換えていくことにより、二酸化炭素排出権の売り手国となるであろう。このような中国の対策に刺激されれば、インドやロシア、ブラジルなどが追従する可能性がある。

映画の時代は、水力発電をはじめ、さまざまな分野において中国は他国と比較して発展しているとは言い難い位置にあった。しかしながら、現代では中国はGDPの全体額で、世界第2位の経済大国になっただけでなく、まだ成長率も高いので、この巨大市場を目指して世界各国の企業が押し寄せるほどである。これについても、貧富の格差問題などが取り上げられている。中国は今、多くの問題を抱えながらも発展し続けている。歴史を遡れば、かつて四大発明で多大な影響を世界に及ぼした中国であるからこそ、更なる飛躍を強く期待できると私は考える。

参考文献

- ・BBC News China 2012/7/5 China's Three Gorges Dam reaches operating peak
(<http://www.bbc.co.uk/news/world-asia-china-18718406>) アジアバイオマスオフィス
- ・自然エネルギー政策ポータルサイト
(<http://www.re-policy.jp/jrepp/about.html>)



南部 見穂

馬場 賢太

今回の字幕制作の勉強会で、私はできるだけ初めから短い言葉で中国語を訳す様に気を付けました。前回は字幕をつけることを意識せずに翻訳作業を進めたため、字幕をつける段階になって、省略しなければいけない部分に迷ってしまったからです。しかし、はじめから勝手に中国語の意味を削るわけにもいかなかったため、日本語をうまく使って、すべての言葉を短くまとめることに苦労しました。これは前回の翻訳作業でも苦労した点であり、改めて中国映画に日本語字幕をつける難しさとおもしろさを実感しました。

私が思う今作の見どころは、前作ではプライドが高く、嫌味な人物として登場した「克明」の成長です。水力発電を成功させるために必死に努力する克明を、村の若者達だけでなく、きっと映画を観賞している方達も応援しなくなるはず。

北村 綾子



私は、字幕制作合宿には参加できなかったのですが、日本語訳、初稿制作、役柄別推敲の作業をしました。日本語訳は、活字に起こされた中国語のセリフを日本語に訳すという作業です。映像も観つつ行うので、一つ一つのセリフをとっても注意深く聞くようになりました。そして、聞きとれて意味がわかったときはとても嬉しかったです。この作業のおかげで中国語を聞きとる力を少なからず身につけることができたのではないかと思います。また、今回の映画は電気に関するものだったので、「カーボンブラシ」といった聞いたことのない専門用語が出てきたり、「オームの法則」が出てきたりして、訳に苦戦したり、戸惑ったりすることもありました。初稿制作は、中国語を日本語に直訳したものを制限文字数内に収めるという作業です。文字数が多い単語が出てきたときは、他のどんな言葉に置き換えて文字数を減らすかとても悩みました。この作業をしているときにもっと日本語の語彙力があればいいのになあと何度も思いました。役柄別推敲は、役柄別にその登場人物のことは違いを統一させるという作業です。語尾などに注意して確認を行いました。

私は、この映画に出てくる村の若者たちが、必死になって電気に関する知識を学びとろうとする姿勢がとても印象に残りました。その姿を見て、自分ももっと必死に積極的に学ばなければいけないあと映画を見ながら考えたりもしました。この作品には、若者の恋模様なども描かれているので、前回の作品に引き続きとても面白い映画だと思います。ぜひ多くの人に観てもらいたいです。

映画に字幕を付けるという作業はとても大変ですが、中国語を何度も聞くことで中国語に対する抵抗がなくなり、自分にとって中国語がより身近なものになりました。このような貴重な機会を与您えくださる先生方には感謝しています。ありがとうございました。

私が今回中国映画の字幕制作に参加した理由は元々映画が好きで、字幕制作に興味があり、中国語の勉強にもなると思ったからです。実際に字幕制作に参加してみると、初めは劇中のセリフが何を言っているのかわからず、先輩方がどんどん訳をこなしていくのかわからず、先輩方も辞書を使い単語の意味を調べながら必死に訳をしていました。あらためて中国語がどれほど難しく先輩方に比べ、いかに自分はまだまだ中国語の勉強が足りていないかわかりました。しかし字幕制作の時に学んだ表現が実際に授業に出ることもよくあり、とても中国語の勉強になりました。

今回字幕制作をしたのは「村の若者達」という映画の続編です。1963年の作品で、村の人々が協力して水力発電所を建設する話です。若者達の恋愛なども描かれており中国の生活や農村の人々の暮らしを知ることが出来る映画です。私が今まで見た中国映画は主に香港の映画や台湾の映画が多く、おそらく自分ではなかなか観ることが出来ない映画なのでこの機会に観ることが出来てよかったです。

字幕制作の合宿では朝から晩まで一日中みんなで話し合い意見を出しながら字幕を制作しました。本来のセリフの意味や文字数、そのセリフを言っている状況や登場人物の話し方などを考慮して日本語訳をつけていくのはとても難しかったです。自分たちが一生懸命考えた日本語訳が映画の本編に表示されるのはなかなか経験出来ないことなのでとても楽しかったです。この活動に参加することが出来て本当に良かったです。

字幕制作には中国語能力だけでなく自分自身がどれだけ日本語のボキャブラリーを持っているかということが重要だということがわかりました。またこの活動に参加したいと思っているので、もっとたくさん中国語を勉強して古い作品の訳だけでなく新しい作品の訳にもチャレンジしていきたいです。

藤川 繭



今回初めて字幕制作の活動に参加し、一つの映画字幕を完成させたことで字幕つけることの楽しさ、難しさを実感しました。また、とても貴重な体験をすることが出来たと感じています。私は話し合いの場などで意見を述べることが苦手で、最初はなかなか発言することが出来ませんでした。このままでは何も言わずに終わってしまうと思い、積極的に思ったことを言うようにしました。先輩後輩関係なく話せる雰囲気、とても楽しくできました。自分の意見が取り入れられるととても嬉しく、意欲もどんどん湧いてきました。皆で話し合うことで、自分では考え付かなかったような意見を聞くことができました。自分の語彙の少なさを感じたりもしましたが、改めて中国語と日本語の難しさ、面白さを実感することが出来ました。また、字幕はただ訳をすれば良いというわけにはいかず、限られた文字数の中でいかに内容を伝えられるかや、中国語独特の表現をどのように日本語にするかなど、考慮することが沢山ありました。他にも登場人物の関係性や性格などから口調を変えるなどして工夫をしました。ひとつのちょっとした台詞にも様々な意見が出てきて、皆こだわりの持って制作することができたと思います。合宿では深夜まで字幕制作に取り組み、眠くなったりもしましたが、皆で協力して無事終わることが出来ました。私は普段、先輩方と関わる機会が少ないので、字幕制作に参加することで沢山お話が出来て、参加して本当に良かったと思いました。また、普段海外のドラマを見ていて、これは別の言い方がいいんじゃないかと感じたことがありました。今回初めて制作側となり字幕に対して様々なことを感じたので、字幕に対する目がまた少し変わるのではないかと感じています。この貴重な経験を大切に、これからも様々なことを意欲的に学んでいきたいと思っています。



成田 爽子

古川 志保



私は今回初めてこの活動に参加しました。字幕付けに関しては二年生の授業の中でアニメーションに字幕を付ける作業をしたことがあり、作業内容はアニメーションが90分の映画に変わっただけだと思っていた。しかし実際は毎週金曜日、夏休み、二泊三日の合宿と字幕付けにこんなに時間がかかると感じていませんでした。

今回の映画は去年の続編でしたが、私は今回初めての参加だったので、まず去年の作品から登場人物がどのような関係なのか、どのようなことがあったのか等の流れを把握する必要がありました。

毎週金曜日には、セリフを直訳する作業を行いました。この作業では、水力発電所に関する専門用語をどう訳すのかを考えるのが難しかったです。夏休みには直訳をもとに字幕の字数制限を超えないように考えたり、登場人物ごとの口調などを統一したりする作業を行いました。この作業でも、やはり水力発電の専門用語はそのまま訳すと字数が多くなってしまいますので、とても苦労しました。一方、この登場人物はこういう話し方をしそうだ、一人称は「私」か「僕」など役ごとに考えるのは楽しかったです。これらの作業を終え、最後に二泊三日の合宿を行いました。この二泊三日は本当に字幕「漬け」でした。登場人物の話すスピードが速いところは全て訳すと入らないので、この場面で登場人物が一番言いたいことはどれなのか、次のセリフにつながるように判断し、字数内におさめるという作業の繰り返しでした。セリフの最後の一字でさえ、こっちの方がいいのではないかと皆で意見を出しながら決めていきました。初日は終わりが見えず、本当に大丈夫なのかと思いましたが、最後まで辿り着いた時は本当に嬉しかったです。

字幕付けを通して、中国語の学習としてもとても役に立つなと思いました。一番大変だと思ったのは、自分の知っている日本語の中からよりセリフに近い日本語を探すという作業でした。来年は更に良い字幕を付けられるように、中国語の学習も日本語のボキャブラリーを増やすことも怠らず頑張りたいです。

私が字幕活動に初めて参加してから、2年ほど経ちました。この2年間で振り返り改めて思うことは、字幕活動が私に様々なことをもたらしてくれたということです。

字幕活動を通して得たことは、主に3つあります。

1つ目は、字幕に関する知識と技術です。2年前、初めて活動に参加した頃の私は、字幕に関する知識や技術はおろか、中国映画すらまともに鑑賞したことのない学生でした。少しでも中国語学習の足しになれば、と思い切って活動へ参加したものの、最初の頃は慣れない字幕付けに大いに悩まされました。限られた字数の中で、意訳になり過ぎないように気を付けつつも、いかに視聴者に簡潔に物語の内容と各登場人物の特徴や個性を伝え、また楽しんでもらうか、それを第一に意識し字幕付けに奮闘しました。これまでの活動を通して、字幕に関する知識と技術は2年前に比べ、ステップアップできたのではと思います。

2つ目は、活動を通して得た苦労や楽しさに満ちたかけがえない思い出です。上記のような苦労もありましたが、一方で各人が一生懸命考えた字幕や意見を、素直に大勢の仲間や先生方とぶつけ合った末、びったりの字幕が生まれたときは、大きな喜びを味わうことができました。そして、完成した作品と共に、無事上映会を終えることができたときの達成感にも計り知れないものがありました。何より、2泊3日寝食を共にする毎年恒例の字幕合宿での学年や立場を越えた交流は、一生物の大切な思い出です。

3つ目は、中国に関する理解とさらなる興味です。中国映画に字幕を付けていく中で、中国文化の一端を垣間見ることができました。それと同時に、中国や中国人への一層の理解や、またさらなる興味も芽生えたと感じています。



工藤 優花

来年の学校卒業を機に字幕活動も卒業なることを寂しく感じますが、字幕活動を通して得た貴重な経験を活かし、来年からは新社会人として日々成長していきたいと思っています。

間先生、甲斐先生、今までお世話になりました！本当にありがとうございました！！

猿渡 千里



今回、中国映画の日本語字幕の制作に参加して、中国映画の面白さを知った。

この映画は1960年代の映画で文化大革命以前の作品である。今から約半世紀前の作品だ。その頃中国では*1毛沢東が「百花齊花、百花争鳴」を唱えて人々に自由な言論を奨励し、多くの知識人や技術者の称賛を集めた。そして、重工業重視の「大躍進」政策のもとで強引かつ高度な集団化である人民公社が展開される。村の若者たちが自分の村のためだけではなく、他の村のためにも一生懸命働き、あきらめずに前に前に進む姿はまさにその時代背景を表している。映画内容とは関係ないが、この後中国では、正直に正当な批判した者の多くが「右派」として迫害された。そして「大躍進」は人々の生活と農業生産に大打撃を与え、餓死2000万人以上といわれる惨禍だけを残したのである。

時代背景を知るとまた内容の見方を変えることができる。私は長編映画の字幕制作に参加するのは初めてだったので、めったにない経験をさせてもらった。意外と短い台詞に字幕をつけるとき行き詰まったり、単語ひとつかえるだけで登場人物の印象がとて変わってしまった。授業では教わったことのない言い回しがあったので映画を見ることで勉強になった。機会があれば他の中国映画も見てみたいと思う。

参考文献

*1 ハンドブック現代中国 第三版 2008年4月
編集愛知大学現代中国学部



内川 安由美

私は今回、初めて字幕制作に参加させていただきました。活動に参加したの頃は、まだ2年生になったばかりの私に字幕制作ができるのかと不安ばかりでしたが、みんなで作品を観て、登場人物たちのセリフを少しずつ訳していくうちに、海外映画のセリフを自ら訳すことの難しさを知るとともに、自分たちの訳によってどんどん映画の内容が分かっていくことに嬉しさも感じました。また、自ら字幕を四苦八苦しながら制作していくうちに、外国語が分からない私がかつて海外映画を観ることができたのは字幕のおかげだということを改めて感じることができ、大変良い経験になりました。振り返ってみると、字幕制作は想像以上に大変なもので、最終的な字幕が出来上がるまでには、多くの時間がかかり、手直しは何度も必要であることを、この活動に参加したおかげで知ることができたのではないかと思います。初めて参加した字幕制作は、映画を少しずつ区切りながら、みんなセリフの直訳を考えるとところから始まりました。そしてその後、直訳を口語訳にして、決められた文字数に収まるように訳を変え、さらに、役柄ごとに言い方を統一させたうえで、全体的にうまく話が進むようにみんな字幕を手直しするなど、字幕完成に至るまでに様々な作業がありました。何度も繰り返し映画を観ていくうちに、登場人物たちに感情移入しながら字幕を考えることができたと思います。

今回字幕を付けた中国映画は、まだ電気が通っていない村で発電を試みるという内容ですが、物心ついた頃から何ん自由なく電気を使ってきた私には、発電するまでの過程を観るのがとても新鮮でした。水力発電に必要な水カタービンという水車を試行錯誤しながら作り上げていく村人たちの様子や、その中で生まれる村人たちの絆・恋愛模様など、この映画には見どころがたくさんあると思います。ぜひ、より多くの人に楽しんで観ていただきたいです。

私は今回初めて映画字幕制作をして、中国語の日常会話や独特な使い方、また実際に字幕を作ることで、どのようにしたら限られた字数の範囲でわかりやすい解釈ができるかを学びました。

今まで中国語を勉強してきたけれど、字幕制作の訳はセリフとして発せられた言葉を訳するので、とても時間がかかりました。訳をして気づいたことは、否定の言葉を使ってあえて反語で肯定にする言い方が多いということでした。特にとても強調したい部分ではよく使われているので、印象が大きかったです。

実際に授業ではその場面を見て訳をしていくけれど、最初はうまくできませんでした。でも登場人物がその場面でどんなことを言いたいのか考えながらやっていくうちに、少しずつ読み取れるようになりました。男女それぞれの言い方にも特徴があり、そのさまざまな表現の仕方はとても勉強になりました。

そしていよいよ字幕の打ち込みに取り組みました。字幕は一人一人のセリフの長さに合わせた字数で訳を完成させなければいけないので、今までの直訳ではとても入りきりません。一番大事なことは短い訳をすることだけ、見る人にとってわかりやすい内容で、言葉の重複を避けたり、前後との関係やその人のセリフに合った訳をつくるのは難しく、言葉選びにとっても苦労しました。うまくいかないときは別の新しい訳も考えました。こうしてやさしい漢字を使用して、読みやすい文にすることがわかりやすい解釈につながりました。作業中は頭をフル回転していたからとてもきつかったけど、いろいろな案を出し合って字数以内にできたときや納得のいく訳ができたときはとてもうれしかったです。この機会を通して、同じ学科の先輩たちと意見を言い合いながら交流することができてよかったです。

私はこの映画字幕制作を生かして、映画やドラマを見ながらさらに中国語を高めていきたいと思いました。みんなで作った映画字幕が一人でも多くのかたにわかりやすく伝わればいいなと思います。間先生、甲斐先生、字幕制作のみなさん本当にお疲れ様でした！！



白水 明里

昨年に引き続き、2度目の参加をさせていただきました。昨年は何もかもが初めてで、中国映画はもちろん、それに字幕を付けるということに新鮮さを感じつつも余裕を持つまでに至らず、あっという間に成果発表会を迎えた気がします。しかし今年は、作品が前回の続編ということもあるとは思いますが、すんなりと入り込むことができ、楽しんで取り組みました。そして何より自分自身の成長をいちばん感じました。

まずその成長を感じたのは、週一回の勉強会でした。映画のセリフを直訳していく中で、昨年は簡単どころしか訳せませんでしたが、今年は難しいセリフでもかなり読み取れるようになり、映画そのものを楽しめました。夏休みに入り、実際に映画に字幕を付ける作業をしましたが、何段階もある作業を進める中に、これまた楽しんでいる自分がいました。その中でも1年間の総仕上げとも言える合宿は、いい思い出です。みんなで朝から夜遅く(夜中)までああでもないこうでもないと思いを話し合い、字幕を完成させました。参加メンバーも多少変わり、昨年とは違ったカラーも出ているのではないのでしょうか。

セリフ1秒間に字幕4文字という字数制限には相変わらず苦しめられましたが、それを乗り越え、しっくりくる言い回しを考えることが字幕制作のやみつきになるところでもあります。昨年も感じたことですが、これは中国語だけでなく、日本語の表現力も大いに必要です。もちろん、人によってセリフの言い回しも変わってきます。様々な登場人物がいる中でセリフのニュアンスを考えるのも大変でした。個性が強い人が多く、その中で水力発電を成功させるのはさぞかし大変でしょう。字幕にも注目していただきたいですが、映画の内容もぜひ楽しんでいただきたいと思います。

映画の字幕制作を通して、今年も本当に貴重な経験をさせていただきました。今年も多くの方々に見ていただけたらと思っています。



種村 理恵

大家好！我是三年级的延塚享平。
 欢迎参加这次电影活动。
 我从一年级的時候，就一直参加翻译中国电影，添加日文字幕的活动。一年级的時候，我的中文水平没现在那么好，所以我几乎听不懂电影里的中文。经过了两年的时间，我的中文水平慢慢地进步了。到现在电影里的中文大部分能听懂了。这个变化对我来说是一件非常开心的事情。
 这次放映的电影是去年我们翻译的作品的续集。影片拍摄于1963年，处于新中国成立后不久的时期，所以是新中国反映农村生活的影片中最有代表性的作品。
 希望大家喜欢这部电影。
 谢谢！

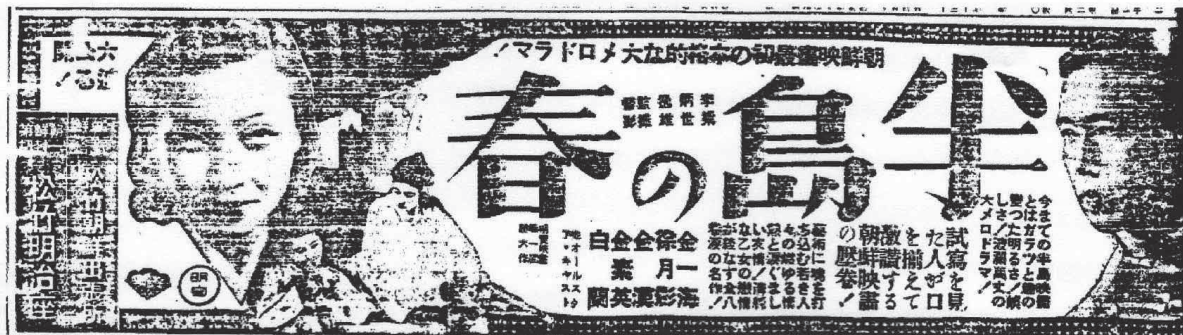
みなさん、こんにちは。三年生の延塚享平です。
 今回は足を運んでいただきありがとうございます。
 私は一年生の時から、この字幕作業に参加させていたいただいており、その時はまだ私の中国語のレベルは今ほどに高くなく、映画の中国語もあまり聞き取れない状態でした、しかし二年が経過し、中国語のレベルがあがっていきつつ、映画の中国語も聞き取れるようになってきました。これは私にとってすごく成長を感じる部分です。
 今回放映する映画は去年の作品の続編になっています。1963年に出来た作品であり、この頃は新中国が成立して間もないといった時代でした。だからこの映画には当時の中国の農村の状況が描かれており、とても興味深い作品であるといえます。
 是非ご来場された皆さんにこの映画が皆さん気に入っていただけると幸いです。



延塚 享平

『半島の春』について

人文学部東アジア地域言語学科 熊木 勉



(毎日新報：1941. 11. 2 広告)

1. 監督・李炳逸 (1910-1978) のこと

1932年 日本に渡る。翌年、コリアレコード社を設立。(三崎英語専門学校で修学か)

1938年 日活東京撮影所、監督部に入社。阿部豊の教えを受ける。

1940年 帰国して明宝映画社を設立。

1954年 40年代後半に米国で映画を学び、日本滞在を経て帰国。東亜映画社を設立。

1956年 代表作「시집가는 날(嫁入りの日)」を監督。(韓国映画初の海外映画受賞作：第4回アジア映画祭最優秀喜劇賞)

李炳逸「情熱の描写」(朝光：1941年5月号)より抜粋

「半島の春」このテーマは朝鮮の映画人らの独特な環境と彼らの持っている良心的芸術家としての情熱を描写しようとする一つの生活記録である。私が『このシナリオ』を選んだ意図は、この作品が持っている特異な内容と芸術家として生きようとする一つのグループの生活『ニュアンス』を克明に描写したかったからである。もう一つ言っておきたいのはこの作品で演出家としての野心を成功させることよりも、作品に対する真摯な意図を最後まで貫徹すると同時に朝鮮の映画人としての新出発を約束したかった。… (原文朝鮮語)

2. 『半島の春』に出演した俳優たち



キムソヨン
金素英 (1913-?)

ボクヘスク
ト恵淑 (1904-1982)

キムイルヘ
金一海 (1906-2004)

3. 小説と映画

- ・原作は、1936年『サンデー毎日』で千葉亀雄賞を受賞した金聖珉「半島の芸術家たち」
- ・小説とは細部でさまざまな違いを見せる。登場人物の名前も変わっている。映画のアンナ像は、小説ではさらに「悪女」のように描かれている。同じく大衆性が強いが、映画のほうがメロドラマ的な要素が強く見える。
- ・小説では劇中映画は「舞姫の愁心歌」。映画では「春香伝」。
- ・小説では最後が満州へと向かう形（内→外）、映画では東京へと向かう形（帰属）。

4. 1941年の朝鮮、そして朝鮮映画

- ・朝鮮映画令（1940年8月施行）[映画法（1939年10月施行）を基本的に踏襲（主務大臣を朝鮮総督に変えるなどの変化）]→製作は朝鮮映画製作株式会社へ一元化（1942年9月）
- ・朝映では「国家目的に即応し、朝鮮統治の根本方針に従ひ、皇国臣民化錬成に資すべき優秀な」劇映画・文化映画・時事映画を独占的に製作。自由製作は認められなかった。
- ・一方、資金と機材の問題→企業化、安定的な資金の必要性→日本への協力という一面も。
- ・朝鮮では映画が大きな娯楽。1942年（1941年人口基準）で2400万人程度の人口に対し1年の観客動員数は3000万人。単純に計算しても1人で年1.2回ほどは観ている。京城では1人あたり7回。→映画の宣伝・影響力

5. 日本語と朝鮮語

- ・1941年の時点で、朝鮮の人口は2400万人（内地人70万人除く）。うち、日本語を「精解シ得ル者」1,884,733人（7.88%）。「普通会話ニ差支ナキ者」2,087,361人（8.73%）。合計で16.61%。『朝鮮総督府施政年報：昭和16年度』
- ・誰を対象に製作された映画であるかの問題→明治座は日本映画を多く上映したが、1938年を基準として、日本人5割、朝鮮人5割の観客（『三千里』1938年5月号）。1500席。

6. 『半島の春』の意味

- 6-1 当時の朝鮮人芸術家たちの生き方→不遇な状況からの脱出と日本への協力
- 6-2 現代からの視線→内鮮一体の過渡期的要素、京城の日常の断面



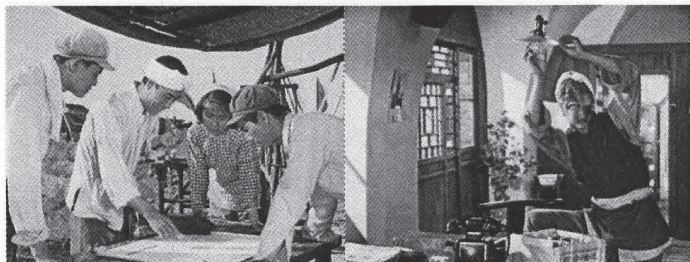
イジェホ 李在鎬 (1914-1960)

望郷草の愛

松竹明治座

■中国映画 我們村裡的年輕人・続集 (続村の若者たち)

中国・長春映画制作所1963年作品、89分
監督：蘇里、伊一青
脚本：馬烽
主演：梁音、李亜林、金迪



●中国映画「我們村裡的年輕人・続集(続村の若者たち)」字幕制作

工藤優花・種村理恵・北村綾子・古川志保・馬場賢太・山田絵理・内川安由美・成田爽子・中須里紗・藤川蘭・猿渡千里・白水明里・南部見穂・延塚享平・妻夫木ちひろ・関翔太・本多萌衣・山下はな・任曼曼(以上学生)
甲斐勝二・間ふさ子(以上教員) 協力:姜暁濱

昨年日本語字幕をつけて上映した「我們村裡的年輕人」の続編です。

村の若者たちの大活躍で水路が完成した孔家莊。若者たちは次にこの水を利用して水力発電ステーションを作ろうと考えるが、相変わらず頑固者の村長が首を縦に振らない。自家製の木製水力タービンを使った試運転に失敗し、意気消沈する若者たち。気を取り直して再挑戦していくうちに、恋がいくつも芽生えて実を結ぶ。

■お詫びとおことわり

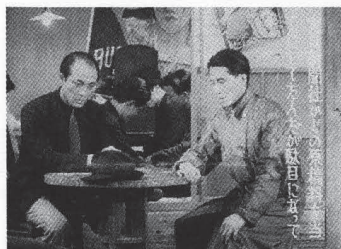
本作品のオリジナル映像には英語字幕がついており、それに日本語字幕が加わっていますので、お見苦しい部分があるかもしれません。あらかじめご了承のほどお願い申し上げます。

■1941年制作の朝鮮映画

半島の春

解説●熊木 勉(福岡大学人文学部教授)

監督：李炳逸(イ・ピョンイル)
主演：金一海(キム・イルヘ)、金素英(キム・ソヨン)



■おことわり

本作品は本学科の学生が日本語字幕をつけたものではありません。

当時のスターであった金一海、金素英が出演。朝鮮映画令により時局的な映画が求められた時代の中で、かろうじて娯楽的な要素の強い映画が可能であったほぼ最後の時期の作品に該当する。植民地朝鮮の当時の生活史の一端をわずかながらもうかがうことができる。当時の字幕をそのままに目にすることもできるのも、歴史的な資料としての意味がある。一方、映画の中に「映画」を盛り込み、そこに春香伝を映し出していることもさまざまな解釈が可能であり、興味深い。

映画『春香伝』を制作する映画社でもともと女性主人公の予定であったアンナの出演に問題が生じ、急きよ、貞喜(ジョンヒ)が代役に決定する。しかし、映画の製作過程で費用の工面の見通しが立たなくなり、英一(ヨンイル)をはじめ、製作者たちにはさまざまな葛藤が生じる…。

第5回福大生による東アジア映画字幕制作・成果発表会リーフレット
福岡大学人文学部東アジア地域言語学科 2013年9月21日発行
制作：種村理恵・古川志保・延塚享平・猿渡千里・関翔太・間ふさ子

7. 観客の感想（順不同、記述のまま）

7-1. 中国映画「我們村裡的年輕人続集（続村の若者たち）」に関するもの

a) 作品に対する感想

- ・良かった。楽しい部分もあり、鑑る前の想像と少し違った印象でした。若い学生の方達がこの作品を選んだ事を良かったと思いました。(50代女性)
- ・今の北朝鮮の雰囲気を感じられました。豊作ではないでしょうが…(30代)
- ・とても清々しい、若い人の素晴らしさがよくでてよい映画でした。その時代と人々の良さがよく出ている、懐かしい映画で楽しませて頂きました。(60代女性)
- ・中国の暮らしや考え方などが感じられて、人々の情熱やはたつた姿が良かったです。(30代女性)
- ・很好。(60代男性)
- ・村の若者たちが、村の発展のために水力発電所建設に向けて頑張っていく物語でした。(60代)
- ・興味深かったです。1960年代の中国の様子も感じられてよかったです。(30代)
- ・やっぱり共産圏らしいプロパガンダな作品でした。最近ニュースで聞く中国の環境破壊や汚染の話題とは対照的で、これが本来の理想なのかと思いました。(20代男性)
- ・昨年に引き続き楽しく拝見しました。男女に差がなく、協力して大きな仕事を成しとげている様子に感心しました。(40代女性)
- ・いい映画でした。(70代)
- ・很好。(60代女性)
- ・昨年も見たので、続編の意味が良くわかった。電気導入をめぐる中国の苦勞が分かった。(50代)
- ・古い中国ドラマは久しぶりなので、以前の頑張る人を見ると、いい感じだと思う。笑う顔と頑張る姿とても感動しました。そんな良い映画を紹介してくれてありがとうございました。(10代女性)
- ・去年も観たので、楽しみに来ました。(40代女性)
- ・はじめて見る映画でしたが、率直に言って見やすい作品だったと思います。(20代男性)
- ・昨年も見たのでわかりやすかった。なつかしく楽しませてもらいました。※学校では昭和史は全く勉強せず、日本が台湾や朝鮮を植民地にしていたことを全く知りませんでした。(60代)
- ・半世紀前の中国の状況が描かれており、興味深かったです。(60代男性)
- ・楽しかった。今日から見れば、全く別世界。当事者は、夢を演じ、夢を見せようとした、という事ですよね。今回も舞台は山西。賈樟柯の父親は、この続編のロケ風景も見たのでしょうか？一度たずねてみ

ようと思いました。(60代男性)

- ・昔の中国映画を観る機会がないので、興味深く観ることができました。(30代女性)
- ・中国の時代背景が分かっておもしろかった。(30代)
- ・明るく楽しい映画でした。(60代女性)
- ・50年前の映画ですね。(40代)
- ・中国共産党の指導の下、人民公社による農業の集団経営方式がうまくいっているという国策映画の感。
- ・当時の中国の状況が伝わる作品で、勉強になりました。書籍ではなく映像である点が意義深いです。農業の機械化←電化の様相が興味深く、かつ、現在でも問題があることも含め、考えさせられます。(50代女性)
- ・良かった。※椅子を並べる時は奇数列と偶数列で交互にずらして並べるともっといいと思います。空調が寒かった。(50代女性)
- ・很有意思。とても面白かった。(70代男性)
- ・社会主義建設(発展)の国策映画ではないでしょうか。(60代男性)
- ・勉強になりました。(60代女性)
- ・1950～60年代の(文革前の)新しい国づくりに国民が燃えていた明るい雰囲気と熱気を感じさせる、楽しい映画でした。※今までに字幕をつけた映画をまとめて上映してください。(せっかく学生が苦勞して完成させた作品ですから。)(60代)
- ・農村の生活や恋愛も描かれていて、おもしろかったです。(50代女性)
- ・昔の中国の家の中や、風景など、興味深かったです。また国は違っても、一つの目標にむかって皆で協力し合うことのすばらしさを改めて感じました。(40代女性)

b) 字幕に対する感想

- ・よくできていると思いました。英語の字幕と比べ、日本語字幕は独自に努力されて解釈を熟考されているように思いました。(50代女性)
- ・分かりやすい言葉だったと思います。(30代)
- ・すっきりと、とてもよい字幕の入り方でした。歌がとても良く、その言葉が心にしみ入りました。よい映画に出会えました。ありがとうございました。(60代女性)
- ・分かりやすく見やすかったです。(30代)
- ・很好。(60代男性)
- ・丁度良い具合に出来上がっていました。(60代)
- ・とても上手でした。というよりも、プロ級だと思いました。(30代)
- ・とても分かりやすかったです。(40代女性)
- ・うまいと思いました。(70代)
- ・よく頑張られたと学生さんたちのご努力に感謝しま

- した。
- ・字幕もきれいでした。延塚先生你的中文很好！（60代女性）
 - ・よく出来ている。字幕を見るだけで、内容が理解できる。すばらしい出来ばえである。（50代）
 - ・觉得字幕编辑得很好。我的日语不太好，但是觉得字幕组一定下了很多工夫。很用心，做的很好。（10代女性）
 - ・テープおこしをして、字をあてていくのでしょうか？今回で3回目なのでその辺に興味を持ちました。短くまとまっていて、わかりやすかったです。（40代女性）
 - ・すばらしかったと思います。私も最近になって中国語に興味を持って映画は主ではないんですが、中国人のインタビューとかを見て、自分の聞き取れる所だけ理解しようとしています。字幕制作は映画の内容もふまえて訳す必要があると聞いているので、やはり大変なんだと思いました。（20代男性）
 - ・とてもよいと思います。很好。（60代）
 - ・違和感なく楽しめました。辛苦了！（60代男性）
 - ・短いことばで、判りやすく、学生のみなさんの努力のほどが感ぜられます。今後も、がんばって下さい。（60代男性）
 - ・中国語は全く分かりませんが、映画の内容がよく分かりました。一番後ろの席でしたが、日本語字幕しっかり読めました。（30代女性）
 - ・まだ中国語が分からないので評価できません。（60代男性）
 - ・分かりやすかったです。（30代）
 - ・とてもよくできていました。わかりやすかった。（60代女性）
 - ・よくがんばりました。”デキ男”は？（40代）
 - ・違和感なく適宜であり良かった。
 - ・つつい英訳を見てしまいましたが、正確で、かつ、会話としてもこなれていて、読み取り易かったです。学生諸氏の真面目な取り組みの成果として、感銘を受けました。（50代女性）
 - ・とても素晴らしい。チャンネル13で見た「目撃者」の字幕も福大生が製作したのを知って、驚きました。良く出来ています。（70代男性）
 - ・とても（活字体）見やすく縦文字だったので良かった。（60代男性）
 - ・分かりやすく良かったと思います。（60代）
 - ・分かりやすかったです。（50代女性）
 - ・分かりやすかったです。（40代女性）

7-2. 朝鮮映画「半島の春」に関するもの

- ・初めて鑑賞する朝鮮映画です。珍しい普段なかなか

- できない経験をしました。（50代女性）
- ・当時の時代背景が感じられる、珍しい映画でした。解説も詳しく、丁寧で良かった。（60代男性）
- ・昔の映画はすばらしい。（60代男性）
- ・珍しい映画、ありがとうございました。（60代）
- ・終戦前の時代背景を写し出されていました。（60代）
- ・1941年ごろの朝鮮、映画界の雰囲気がよく伝わりました。（30代）
- ・当時の朝鮮の時代背景がよく出た映画でした。（50代男性）
- ・朝鮮語と日本語が混ざり合っていることに驚いた。内容は何がテーマかわかりにくい。（50代）
- ・朝鮮語が聞きたかったので日本語が多くて残念でした。字幕が無い所を自分で解釈出来て楽しかったです。（40代女性）
- ・ほくも一番印象に残ったのは日本語がよくまじっていたところです。（20代男性）
- ・ことばの学習もかねて勉強させていただきました。●[判読不能]の植民地時代をのぞいた気がします。（60代）
- ・人々のかかわりがなつかしく思いながら見ました。70年前の映画に見えませんでした。（60代）
- ・戦前の京城の風景などを楽しめました。（60代男性）
- ・とても良かった！映画作成者たちの苦勞、情熱がよく分かった。しみじみとした作品で深い想いが胸に残った。解説を聞いてよく理解できた。（60代女性）
- ・2回目の観覧でした。前に気が付かなかった点をいろいろ確認でき、あらためて楽しませていただきました。植民地時代は言葉を奪い、人（女）を奪い、国を奪ったと、最近の韓国政府は言っているが、日本と同等の教育・社会資本を注ぎ込み、近代化が図られたと確認できた。韓国人の主体的自治であり平和な社会を見られ良かった。また往時の日本語が上品だった。（40代男性）
- ・当時の朝鮮と日本の関係を如実に表している作品として見ました。朝鮮人の名前の日本読み、朝鮮人自身が日本語を使うこと等、痛烈です。朝鮮の生活の様子も、大いに勉強になりました。（50代女性）
- ・毎年貴重な映像を見ることができて、楽しみにしています。字幕制作は大変でしょうが、なかなか体験できないと思います。当時の京城の様子が見れて興味深かったです。日本語が時々入るので不思議でした。（50代女性）
- ・私が生まれた5年後の作品でとても興味がありました。（70代男性）
- ・戦前の朝鮮半島、日本統治時代の模様が見れて興味深い作品でした。日本語と韓国語が交互に出てくるのは何故か？（60代男性）
- ・半島の春が字幕が見にくかった。画面に白い所に字

幕があり分らなかった。(60代女性)

- ・現代の韓国映画の源流としてより、日本の古い映画の雰囲気を感じられた。父母が京城で出会って、結婚して(父：京城医専、母：京城第一高女)終戦で日本に帰国。父母の京城生活の一端が伺われた。(60代)
- ・興味深かったです。どんな●[判読不能]の流れで、映画をつくっていたのか、分からないままでした。(50代男性)
- ・映画は時代を写す鏡。当時の朝鮮の状況がよく理解出来ました。朝鮮語と日本語の混在、街の様子、生活の状況などなど。貴重な古い映画を見る機会を与えていただき感謝しています。韓国映画にはまっています。イム・グオンテクの風の丘を越えて、祝祭、春香伝など大好きで、そのルーツを感じました。(60代男性)

8. おわりに

今回の成果発表会は、残念ながら韓国映画が学生の制作した字幕では参加できなかった。このことはまことに残念ではあるが、一方で、特筆すべき出来事もあった。

それは、本成果発表会が協賛企画として参加しているアジアフォーカス・福岡国際映画祭事務局よりお話をいただいて、当映画祭が交流を行っている中国・西寧 FIRST 青年映画祭の審査員特別賞受賞作品に我々が日本語字幕を付けたことである。これはアジアフォーカス・福岡映画祭の期間中にチャンネルシティで特別上映され、満員の盛況であった。

作品は高則豪監督『目撃者』(2012年/中国/94分)、字幕制作を行ったのは、在学中に字幕勉強会に参加していた本学科中国コースの卒業生2名と本学科の教員(甲斐・間)である。

7月25日にFIRST青年映画祭で受賞作品が決定し、その後アジアフォーカスで上映される本作品の映像データが我々の手元に到着したのが8月23日、映画祭での上映が9月19日と、一か月足らずの字幕制作期間であった。かなりの強行軍ではあったが、集団推敲という我々のやり方をうまく生かし、それなりの水準の字幕が出来たと自負している。

このように、我々の活動が社会に認められ、社会のためにささやかながら貢献できるようになったことはまことに喜ばしい。今後も本学科の卒業生がこのような場で力を発揮できる機会が増えるよう精進していきたいと考えている。

(間)

参考資料

一、アジアフォーカスちらし

協賛企画
第5回福大生による東アジア映画字幕制作・成果発表会


入場
無料
申込不要

福岡大学人文学部東アジア地域言語学科の学生が日本語字幕を制作した中国映画1本と、非常に貴重な1940年代の朝鮮の劇映画を上映します。


■9月21日(土)13:00開場

■会場:エルガーラ7階 多目的ホール1
(福岡市中央区天神1-4-2)

13:30~
『我們村裡的年輕人・
続集(続村の若者たち)』
[1963年/中国/89分]



15:15~
『半島の春』
[1941年/韓国/85分]
解説:熊木勉(福岡大学人文学部教授)
(韓国映像資料院の映像を使用しています)



料無料

場福岡大学人文学部東アジア地域言語学科


☎092-871-6631(内線4372)

二、福岡フィルムコミッション「目撃者」関連情報

http://fukuoka-film.com/topics/old_2013_09.html

◆中国映画『目撃者』特別上映(中国 青海青年映画祭審査員賞受賞作)

【アジアフォーカス・福岡国際映画祭(9月13~23日)関連特集】



8月に中国西寧省で開催された「青海青年映画祭」で受賞した中国映画『目撃者』が今回、アジアフォーカス・福岡国際映画祭にて特別上映されます。
(★字幕は福岡大学人文学部 東アジア地域言語学科の協力)

日時: 9月19日(木) 13:00~

会場: ユナイテッド・シネマ キャンパシティ13

作品概要: 借金返済ができないラーメン屋の店主と金貸しとの間で繰り広げられる復讐劇を描いた/ハイアレンス作品。主演はジャック・カオ。

※「青海青年映画祭」について
中国最大級のインディペンデント映画祭。世界中から1000を超える作品が集まり、アン・ホイ監督など著名人7名が審査員を務める。